

## 日本の民間伝説～很久很久以前～

在日本也有和诸位祖国相同的，从孩提时代起就听过的故事。作为故事有快乐的，有隐含教训意义的等各种各样，大多数都以“很久很久以前”开始，以“可喜可贺”（事情顺利或状态良好地结束时说的话）。从本期开始介绍日本广为人知的民间传说。

### — 开花爷爷 —

很久很久以前，某个地方住着一对善良的老爷爷和老奶奶。两人因为没有孩子，所以非常疼爱一只白色的小狗。

有一天，小狗在田里挖掘时，突然发出“来这里挖汪汪”的叫声，老爷爷十分吃惊，就用锄头向下深探，结果挖出了大大小小许多金币。

隔壁贪婪的老头听说了这件事，就将小狗带到了自己的田里，强迫小狗寻找宝物后叫喊。没办法，小狗只好叫道“来这里挖汪汪”，但挖出来的全是些破烂儿。一怒之下老头抡起锄头将小狗打死了。

失去心爱小狗的老爷爷和老奶奶十分伤心，将小狗埋在花园里，并在墓边种了一棵树，一夜之间就长成了大树。之后小狗出现在梦中，嘱咐将树砍了做成一个臼并用臼来制作年糕。老爷爷按照做了，每次捣年糕时，大大小小的金币就沙沙掉了出来。

得知此事的邻居老头就借了臼来做年糕，可每次捣年糕时出来的都是破烂儿。老头非常生气便把臼给烧成了灰烬，因此善良的老爷爷就将臼的灰烬带回了家。之后，小狗再次出现在梦中，嘱咐将灰烬洒在冬天枯萎的树木上。老爷爷遵照指示做了，结果樱花梅花大片盛开。正巧一位达官路经此处，对这前所未有的美景非常赞赏，便赐予老爷爷很多赏赐。

邻居老头也想获得赏赐，于是把剩余的灰烬洒在了的枯萎的树木上。但是，枯木并没有开花，反而将灰烬洒到了达官的眼睛里，盛怒的达官将贪婪的老头送进了牢里。

可喜可贺。



## 日本の昔話～むかし、むかし～

日本にもみなさんの国と同じように、子どもの時から聞いてきたお話があります。物語として楽しんだり、教訓が含まれていたり様々ですが、多くは「昔々」で始まり「めでたしめでたし」（物事が無事に、また良い状態に終わったときに言うことば）で終わります。今号から日本でなじみ深い昔話をご紹介します。

### — 花咲か爺さん —

昔々、あるところに、正直者のお爺さんとお婆さんが暮らしていました。2人には子どもがいなかったため、白い犬を大切に飼っていました。

ある時、この犬が畑を掘りながら「ここ掘れワンワン」と鳴き始めたので、驚いたお爺さんが鍬で畑を掘ると、大判小判の金貨がざくざく出てきました。

それを聞いた隣の欲張りなお爺さんは、この犬を自分の畑に連れていき、財宝を見つけて鳴くように無理強いしました。しかたなく犬が「ここ掘れワンワン」と鳴きましたが、出てきたのはガラクタばかり。怒ったお爺さんは犬を鍬で殴り殺してしまいました。

かわいがっていた犬を失って悲しんだお爺さんとお婆さんは、庭にお墓を作りそこに1本の木を植えると、一晩で大きくなりました。そして夢に犬が現れ、この木を切つて臼を作り餅をつくように頼んだので、そうしたところ、餅をつくたびに大判小判がざくざく出てきました。

それを知った隣の爺さんが臼をかりて餅をつくつと、餅をつくたびにガラクタが出てきました。怒ったお爺さんは臼を焼いてしまったので、正直者のお爺さんは灰になった臼を持って帰りました。夢に再び犬が現れ、冬の枯れ木に灰を撒いてほしいと頼んだので、お爺さんがその通りにすると、桜や梅の花が一面に咲きました。そこにちょうどお殿様が通りかかり、あまりの見事さに喜んで、お爺さんにたくさんの褒美をくれました。

隣の爺さんも褒美をもらおうと、残りの灰を枯れ木に撒きました。しかし、枯れ木に花は咲かず、撒いた灰がお殿さまの目に入り、怒ったお殿さまは欲張りなお爺さんを牢につないでしまいました。

めでたし、めでたし。